

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	17-046	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Modifications in dietary and alcohol intakes between before and after cancer diagnosis: Results from the prospective population-based NutriNet-Santé cohort. 癌の診断前後での食事と喫煙の変化 : NutriNet-Santé 前向きコホートからの結果		
執筆者		
Fassier P, Zelek L, Lécuyer L, Bachmann P, Touillaud M, Druesne-Pecollo N, Galan P, Cohen P, Hoarau H, Latino-Martel P, Kesse-Guyot E, Baudry J, Hercberg S, Deschasaux M, Touvier M.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2017 Aug 1;141(3):457-470. doi: 10.1002/ijc.30704. Epub 2017 May 15.		
キーワード	PMID	
食事、栄養摂取、飲酒、癌生存者、前向きコホート	28335085	
要旨		
目的： 癌の診断後の食事と飲酒は、おそらくがんの再発や死亡との関連があるという仮説の元、前向きコホート研究を用いて癌の診断前後での食事、栄養素とアルコール摂取の関連について調べた。		
方法： 2009年から2016年の間に NutriNet-Santé コホートで癌の診断を受けた 696 人を対象とした。がんと診断される前（平均 2 年前）から 24 時間思い出し法を用いた質問票調査を定期的実施していた。人口統計学的観点、経済状況、生活様式、臨床的側面も加味して、多重ロジスティック回帰分析などを用いて検討した。		
結果： 1 人当たり平均の食事記録回数は、がんの診断前 5.9 回、診断後 8.1 回であった。診断後に摂取量が低下していた項目は、野菜（1 人当たりの差の平均 102.4±79.8g/day）、乳製品（93.9±82.8g/day）、肉/内臓（35.5±27.8g/day）、大豆製品（85.8±104.1g/day）、清涼飲料水（77.9±95.4g/day）、アルコール飲料（92.9±119.9g/day）であった。逆に診断後に摂取量が増加していた項目は、スープ（42.1±34.9g/day）、脂質・ソース類（18.0±13.4g/day）だった。P<0.05 と有意差をもって減少していたのは、エネルギー摂取量（377.2±243.5kcal/day）、アルコール摂取量（7.6±9.4kcal/day）、タンパク質（17.4±12.5g/day）、いくつかのビタミン類および微量元素であった。逆に、診断後に増えていたのは脂質（19.4±14.6g/day）、SFA（9.3±7.0g/day）、MUFA（8.3±6.3g/day）、ビタミン E（3.9±3.3g/day）であった。		
結論： 癌の診断を受ける前後では摂取する栄養の内容が変化していた。健康的な変化だと考えられるのは、飲酒量や清涼飲料水の摂取減少、あまり好ましくない変化だと考えられるのは、野菜および多くのビタミン類と微量元素の摂取減少であった。これらの結果は、癌生存者によりよい栄養摂取についての勧告を作成するのに有用であると考えられる。		